

申込み期限 令和5年11月16日(木)

令和5年度 大分県ドローン協議会 研修会（第3回）のご案内

大分県ドローン協議会では、意欲のある県内ドローン関連企業を支援し、ドローン産業を本県における新たな成長分野として育成することを目的に研修会を開催します。

本年度第3回となる研修会では、東京大学 大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻 教授 土屋 武司 氏を講師にお招きします。土屋先生は、航空工学を専門とし、日本航空宇宙学会フェローや文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 航空科学技術委員会 委員長など、国や関係団体の委員も務めています。

本研修は、市場の拡大が予測されている「ドローン」や「空飛ぶクルマ」について、土屋先生の航空業界等のご見識を踏まえ、**次世代空モビリティの実装に向けた課題と展望、他業種（自動車や精密機械、機械製造等）からの参入可能性（ビジネスチャンス）**や、**そのために今取組むべき事**などについてご講演いただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

【土屋 武司 氏のご紹介】

2000年 東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻修了、博士（工学）。同年 航空宇宙技術研究所（現在のJAXA）研究員。2002年 東京大学 専任講師。その後、助教授、准教授を経て、2015年より現職。

航空機の飛行力学及び飛行制御に関する教育研究に従事。航空機の飛行安全向上（落ちない飛行機）及び効率化に向けた研究、マッハ5で飛行する極超音速機の研究、飛行ロボット（ドローン）の研究開発等に取り組む。

日本航空宇宙学会（フェロー、元理事）、日本機械学会（元交通・物流部門長）。文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 航空科学技術委員会 委員長。



開催概要

日時 令和5年11月21日（火）14:00～15:00

場所 大分県産業科学技術センター 1階 多目的ホール

演題 次世代空モビリティ（ドローン、空飛ぶクルマ）の実装に向けた課題と展望とビジネスチャンスについて

講師 東京大学 大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻 教授 土屋 武司 氏

※本研修会に合わせて、同会場にて13:30から「次世代空モビリティの社会実装に向けて（経済産業省）」、15:15から「第1回空飛ぶクルマ産業参入への道 特別講演会（法政大学）」が開催されますので、合わせてご参加ください。（特別講演会の詳細は2枚目のチラシをご確認ください。）

お申込み方法（第1回空飛ぶクルマ産業参入への道 特別講演会を含む）

以下URL（大分県スマート申請）からお申込み下さい。
（複数名で受講される場合も、必ず1名ずつお申込みください。）
<https://ttzk.graffer.jp/pref-oita/smart-apply/surveys-alias/kensyu3>

お申込み〆切：令和5年11月16日（木）17:00



左記Rコードからも
お申込みいただけます。
（QRコードは（株）デンソー
ウェブの登録商標です）

お問合せ先

大分県ドローン協議会事務局（大分県商工観光労働部新産業振興室）担当：佐藤
TEL：097-506-3273（直通）

◆次世代モビリティサービス推進事業◆

第1回空飛ぶクルマ産業参入への道 特別講演会

勉強会にあたって

次世代空モビリティはヒト・モノの新たな移動手段として期待されており、なかでも“空飛ぶクルマ”の事業化は100年に1度の移動革命ともいわれ、世界各国で開発・実証が進められています。

大分県においても、次世代空モビリティは都市部での移動にかかる時間の短縮、離島や山間部での移動の利便性の向上、災害時の救急搬送や物資輸送の迅速化など、新しいサービスの展開や各地での課題解決への活用、ものづくり県としての強みを活かした次世代空モビリティのサプライチェーン構築などによる産業の振興を目指しています。

この度、空飛ぶクルマの社会動向や開発動向、本県における空飛ぶクルマ事業への参画可能性などを学ぶことができる勉強会を開催します。

開催概要

タイトル

空の移動革命に向けた検討課題の現状

日時

2023年11月21日(火) 15:15~17:15

開催場所

大分県産業科学技術センター 1階 多目的ホール

講師



白井一弘氏

(法政大学理工学部 客員教授)

(法政大学大学院アーバンエアモビリティ研究所 客員研究員)

(フジビジネスジェット株式会社 運行部 部長)

(HIEN Aero Technologies 株式会社 監査役)

- ・日本航空にて整備現業部門配属後、技術部で客室/電装設計に従事、米ボーイング社で777設計チームに参加。その後、航空機・装備品技術部門、生産管理、政府専用機技術グループ長を経て、ナバ運航乗員訓練所副所長として整備部門統括。帰国後、JALメンテナンスサービス常務取締役、JAL監査室主席を歴任。現在法政大学で教鞭をとりながら日本のビジネスジェット振興に従事。
- ・日本航空宇宙学会、アメリカ航空宇宙学会、航空技術協会、SAE・ASTM会員

講演内容

日本では2025年の“空飛ぶクルマ”商用運行開始に向け、各種基準の整備が進められている。これに伴い、空飛ぶクルマ産業への参入可能性がより明確になってきていることから、今回は当該開発の状況、検討課題について県内事業者の産業参入可能性について講演いただく。

空飛ぶクルマとは

“空飛ぶクルマ”とは、「電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段」。諸外国では、Advanced Air Mobility (AAM) や Urban Air Mobility (UAM) と呼ばれている。

法政大学と大分県

- ◆法政大学の創立者(伊藤修・金丸鉄)は共に、[大分県杵築市出身](#)
- ◆法政大学は日本で初めて大学に航空学科を設置、以来今日も[大分空港](#)で、未来の航空業界人財を育成中
- ◆[杵築市のきつき茶](#)は「ほうせい茶」として大学キャンパス内で親しまれ人気「大分と歴史的にも深い絆」